

### 坂下高校 卒業式

3月1日(金)、卒業式が本校体育館で行われました。1年生・2年生・保護者が見守る中、厳かに式が進みました。学校長は式辞の中で「前向きに考える姿勢を大切にしてほしい」と述べ、生徒会長の原優人さんは送辞の中で「普通科」「生活デザイン科」「福祉科」各科の先輩への想いを伝えました。また、答辞では卒業生代表の島崎珠杏さんが、3年間の思い出と周りの人々への感謝の気持ちを一言一言に想いを込めて述べてくれました。温かな気持ちの感じられる卒業式となりました。進学する人・就職する人とそれぞれの進路を歩んで行きますが、坂下高校で学んだことを糧として、未来で活躍してくれることを期待しています。



### 坂下中学校 超升先輩 ああ坂中よ わが母校

3月8日(金)、60名が本校の卒業生名簿に名を連ねました。これまでの3年間をひたむきに願いに向かって歩み続け、その成長が感じられる自信に満ちた表情で堂々と卒業証書を受け取り、新たなステージへと巣立っていきました。5本柱の一つである「合唱」を大切にしてきた学年だけあって、卒業合唱曲「証」も聴いている者の心に響く圧巻の合唱でした。「これぞ坂下中学校3年生」そのような姿でした。

卒業生の皆さんが、これからも母校坂下中学校の合い言葉である「超升先輩」の精神を大切に、よりよい自分を目指して飛躍していくことを期待しています。



### 坂下小学校 6年生を送る会

2月28日(水)、「6年生を送る会」を行いました。今年度は久しぶりに全校児童が体育館に集まって行うことができました。前半は全校児童で「思い出の 슬라이ド」を見たり、学年ごとに「感謝のメッセージ」や「合奏」、「記念のプレゼント」を届けたりしました。後半は気持ちのよい青空の下で縦割り班ごとに遊び、楽しい思い出を作りました。6年生は「全校にお祝いしてもらえてうれしかった」「入学した頃の写真は恥ずかしかったけど、自分たちの成長を感じた」などの感想を話していました。中心になって会を運営した5年生は「次は自分たちが、この坂下小学校を支えていくのだと感じた」と意気込みを話していました。卒業・進級が近づいていることを感じながら、6年生との最後の思い出を作る機会になりました。



### やさかこども園 かがやく瞳 参観日

2月14日(水)、今年度最後の参観日を行いました。12月に予定していた参観日が感染症拡大で中止だったので、保護者の皆さんも園での子ども様子の様子を見られることを楽しみに来てくれました。

子どもたちは各クラスで朝の会をして、歌を聞いてもらい、未満児は0・1歳児で隠れ参観を、2歳児では劇遊びをして、春の参観日に比べ、成長した姿を見てもらうことができました。年長児は最後に親子ドッジボール対決を楽しみました。この日に向けて練習を頑張ってきたので、勝負にも熱が入りました。「負けそうになったけど勝てた！」と嬉しそうなお子どもたちでした。卒園前の良い思い出になりました。



#### 《4月の主な行事》

日曜日	行事名	時間	場所
4 木	やさか地区観光安全祈願祭	10:00~	椈の湖
5 金	臨時区長会	13:30~	坂下総合事務所第2庁舎
8 月	やさかこども園 入園式	10:00~	やさかこども園
	坂下高校始業式・入学式		坂下高校
9 火	小・中学校 始業式		
	中学校入学式	9:00~	坂下中学校
	小学校入学式	13:50~	坂下小学校
11 木	区長・自治会長合同会議	19:00~	坂下総合事務所第2庁舎
14 日	椈の湖音楽フェス2024	10:00~16:00	椈の湖野外ステージ
17 水	行政・人権相談	13:00~15:00	坂下総合事務所第2庁舎
	いきいき元気教室	13:30~14:30	坂下公民館
26 金	定例区長会	13:30~	坂下総合事務所第2庁舎
	やさか地区農業委員会・農地相談	9:30~	坂下総合事務所

人口と世帯数(令和6年3月1日現在)

人口	4,044人(前月比1人減) 男1,962人、女2,082人
世帯数	1,652世帯(前月比3世帯減)

編集・発行  
中津川市 坂下総合事務所  
電話 0573-75-2111  
FAX 0573-75-4704  
Mail sakashita-office@city.nakatsugawa.lg.jp

#### 慶弔のお知らせ

2月11日から3月10日の坂下総合事務所への届出分

- ご逝去 敬称略
- 西尾 澄恵 (92歳) 島平一
- 古井 志もめ (94歳) 西方寺

#### ごみの収集日

燃えるごみ	毎週 月・木曜日
燃えないごみ	4月 3日(水)
資源・硬質ごみ	4月 10日(水)
大型ごみ	4月 19日(金)
有害ごみ	4月 24日(水)

2024年(令和6年)4月1日

# さかしたタイムズ

ときめき・かがやき・つながる さかした



## 椈の湖音楽フェス2024 in 月の市を開催します

4月14日(日)、椈の湖野外ステージで音楽を中心としたフェスティバルを開催します。

歌、バンド、吹奏楽、ダンスなど多数の出演者の他、キッチンカーをはじめとした飲食バザーが出店します。春の椈の湖にお越しいただき、素敵な音楽やダンスをお楽しみください。

開催日時: 4月14日(日) 10:00~16:00  
開催場所: 椈の湖野外ステージ  
問合せ先: 坂下総合事務所 TEL75-2111



## やさか落語会が開催されました

3月10日(日)、坂下公民館で、「やさか落語会」が開催されました。

この落語会は、中津川文化会館が、坂下文化協会、川上文化協会と共催して企画しました。令和元年に実施予定でしたが、コロナ禍のため中止になり、3年越しに実現したものです。

やさか地区外からも多くの方が訪れて、開場前から開演を待つ長い列ができました。約240人にご来場いただきました。

出演されたのは、上方で活躍されている落語家、笑福亭 喬介さん、露の新幸さん、桂りょうばさんと、手品師のマッハ金太郎さん。落語をはじめ、ギターを使った音曲漫才やマジックショーが披露され、会場は終始笑いに包まれました。



▲ 落語 笑福亭 喬介さん



▲ 落語 露の新幸さん



▲ 落語 桂りょうばさん



▲ 満員御礼! 会場の様子



## ほほえみ教室「記念品作り」

3月7日(木)、ほほえみ教室では、二つ折りの色紙に、子どもの手型・足型や写真などの子どもの記録や、家族からのメッセージなどを飾った記念品を作りました。毎回ボランティアとして活動に参加して下さる坂下地区民児協様から、色紙や飾りに使うテープ、工作用の文房具などもいただき、学級生はおしゃべりしながら思い思いに色紙をうめていきました。

令和4年度に続き参加した人は、前回作った手型を見比べて、子どもの成長を感じたようです。

親子で楽しく見返すことができる思い出の色紙になりました。

ほほえみ教室では令和6年度の学級生を募集しています。

対象の方には個別に案内を送りますので、親子の仲間づくりにぜひご参加ください。



## 「おはなし会」に遊びに来ませんか？



坂下公民館では5月から3月まで月1回「おはなしの会」を予定しています。絵本の読み聞かせや手遊び、簡単な工作などを楽しむ会です。

主に金曜日の午前中に行いますが、年2回土曜日に開催しています。くわしくは市の「子育てカレンダー」、坂下公民館の掲示をご覧ください。また、「広報やさか」の放送でもご案内します。

どなたでも無料で参加でき、予約もいりません。お気軽にご参加ください。

## 土びな展示

3月3日(日)～4月3日(水)、坂下公民館1階ロビーで、坂下地区郷土文化財保存会による土びな展が開催されています。

このひな人形は、坂下総合事務所第2庁舎3階の歴史資料館 柗蔵に収蔵しているものと亀山正巳さん(島平2)所有のものをひな祭りの時期に合わせて展示したもので、会場には合計36体が展示されています。また、江戸時代のひな人形も展示されています。みなさま、ぜひご覧ください。



▲ 土びな人形

## ご寄付をいただきました

原家従兄弟会 様 より  
能登半島地震災害義援金として  
ご寄付をいただきました。

・寄付金額 50,000円

ありがとうございました。



▲ 江戸時代のひな人形

# 郷土文化財紹介

## ＜百年前の輸送機関 飛驒索道のこと＞

万賀を出た索道は加子母の西側をまっすぐに北上し、小和知で向きを変えて次の中継地宮地駅へと続きます。昭和初期には、加子母の奥の東本谷御料林などで切り出した木材を森林鉄道で出し、小和知(舞台峠)からは索道を利用して坂下駅へ搬出していました。(『加子母の歴史と伝承 続編』より)

小和知で向きを変えた索道は現在の国道257号よりかなり西側を経て、宮地の旧市街地西にあった中継所につながります。跡地は現在鉄工所になっています。

宮地在住のKさん(100才)は、父親が中継所で働いてみえたそうで貴重な証言を頂けました。幼少期とは言え索道の動いていた後半のことは良く覚えていて、そこには「大きな歯車が回転していて床はその潤滑油で真っ黒だった。宮地駅で積み下ろしする荷物は少なかったが、町までは単線のワイヤーロープが張ってあり積み替えていた。時には構内で積み荷の梱包がほどけて散乱した」とか、飛驒索道閉鎖後の1937(昭和12)年から、一部のワイヤーロープなどを再利用して下呂の少ヶ野から王滝川最上流に造られた三浦ダムまで、建設資材を運ぶ索道が造られていましたが、その模様をいろいろと話して頂きました。ワイヤーロープの再利用は坂下町内の保ヶ山へ渡る吊り橋でも行われていました。

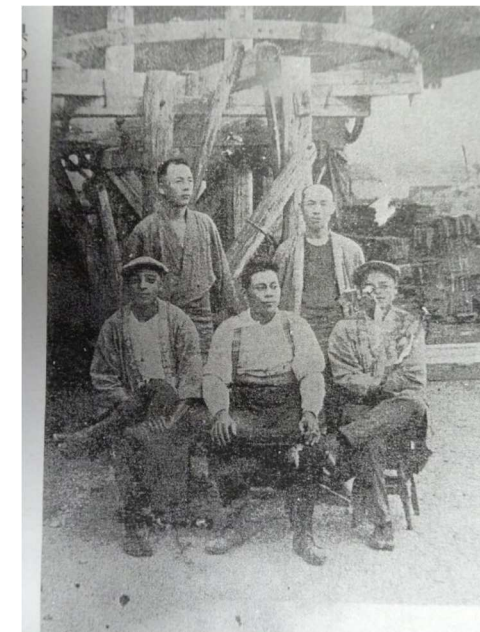
二度訪問して色々お聞きしました。そう言えば当時使用していたシートがあると聞き拝見しました。一枚は搬器の上に被せた物で切り欠きがあります。元は6尺四方はあったという。一枚は飛驒索道運輸(株)の「輸」の字が残った大きなシートの一部でした。今も室外機や耕運機に被せて使われており、その丈夫さには驚きます。

終点の下呂市三原では何度も聞き取り調査をしましたが、場所の特定には至りませんでした。文献資料も無く教育委員会でも分かりませんでした。発電所や取水ダム、隧道などの中間地点で、飛驒川右岸の三原は適地だと言えます。聞き取り調査中に「ここは、昔駅だったのでたいそう賑わっていた」と言われる方がいました。高山線の下呂駅はもっと上流ですし、開通はずっと後のことです。索道の駅を指しているかも知れません。今、建設関係の会社がある辺りが駅だったと推測します。

平成16年版『坂下町史』で、昭和4年度の坂下駅の取り扱い貨物の統計を見ると、セメントが5000トン超(他は千トン未満)で、断トツでトップでした。発電所は完成して当初の目的は達成、北恵那鉄道も開通していましたが、セメントをはじめ民生品の輸送を索道が担っていたことが窺えます。しかし、1930(昭和5)年高山線が下呂まで開通したため、翌年飛驒索道は終業しました。

郷土文化財保存会会員

たぐち のりいち  
田口 憲一



▲ 万賀駅『加子母の歴史と伝承』より



▲ 元は、6尺四方あったシート



▲ 写真中央部にうすく「輸」が見えるシート

4月 21日 毎月第3日曜日は「家庭の日」 中津川市青少年健全育成推進市民会議  
・本となかよし おともだち